

環境活動レポート

(対象期間 平成 22 年 8 月～平成 23 年 9 月)



平成 23 年 10 月 15 日

佐用自動車株式会社

●環境方針

当社は、環境関連法規及び取引先等の要求事項を遵守するとともに、企業理念に基づき「地球環境を守ろう」をスローガンに、環境との共生、調和を最重要課題として認識し、自ら責任を持ち全従業員あげて環境負荷の低減に配慮した活動に取り組むため以下の「環境方針」を定めます。

- (1) 省資源・省エネルギー活動の推進
事業所内の整理・整頓・清潔・清掃に留意し、事業活動に於ける電力・紙・水道等の資源、石油等化石エネルギーの使用量の節減等環境負荷の低減に努めます。
- (2) エコ整備・エコ車検等による排出ガスの低減
自動車から排出される有害な排出ガスや地球温暖化の原因とされるCO₂を削減するための「環境汚染防止整備」を推進します。
- (3) リサイクル活動による省資源化の推進
省資源活動の一つとして、リサイクル品の使用等、積極的に推進します。
- (4) 廃棄物の削減・分別処理
事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をし、分別処理を推進します。
- (5) 地域の行政や民間の活動に参加し、街ぐるみで環境意識の啓蒙、環境活動の実践に取り組みます。
- (6) 社員や労働環境が変化すれば、これまでの努力もあつと言う間に元に戻ります。エコアクション21申請の初心に戻り、基本から作り上げます。
- (7) 私達は環境保全活動に自主的に取り組み、環境関連法令・規則を遵守します。

平成 23 年 10 月 5 日

佐用自動車株式会社
代表取締役 小林 義昭

●組織の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

佐用自動車株式会社（登録・認証法人名）
代表取締役 小林 義昭

2) 所在地

兵庫県佐用郡佐用町佐用 232 番地 1

3) 環境保全関係の責任者氏名及び担当連絡先

環境管理責任者・整備部門責任者	小松 勝（工場長・工場責任者）
事務局	小林 宏子
施設部門責任者・電力、水使用量管理	松本 洋之
車輛部門責任者・車輛使用管理	福本 匡之
事務部門責任者・紙使用量管理	藤川 優子
産業廃棄物管理	竹本 直司

電話 0790-82-3737 FAX 0790-82-0223

4) 事業の内容

自動車整備（陸運局指定工場・民間車検場）
自動車新車・中古車販売業（日産自動車販売会社指定工場）
自動車保険代理店 自動車登録業務ほかこれらに付随する業務

5) 事業の規模

活動規模	単位	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
売上高	万円	37500	38000	31600	26800	19700
整備台数	台	2726	3146	3163	3033	2167
新車販売数	台	104	73	75	73	47
従業員数	人	10	10	10	9	10
面積	m ²	1237	1237	1237	1237	1237

※平成23年は1月から9月まで

●対象範囲

佐用自動車株式会社（自動車販売・整備及び損害保険代理業）
平成23年の対象期間は平成22年8月から平成23年9月まで

●環境目標と進捗状況

1) 平成 23 年までの目標達成状況

(1)22 年の二酸化炭素排出量は、20 年実績の2%削減の目標に取り組んだ結果、16.2%削減を達成した。これは、全社員が協力した賜物である。

23 年に関しては、現在の進捗状況から判断して達成見込みである。

項目	単位	20 年	21 年	22 年	23 年
購入電力	kg-CO ₂	23309.7	22302.4	19707.5	14316.8
化石燃料(ガソリン・軽油・灯油)	kg-CO ₂	41483.1	39547.2	34060.6	25275.4
CO ₂ 排出量合計 実績	kg-CO ₂	64792.8	61849.6	53768.1	39592.2
CO ₂ 排出量合計 目標	kg-CO ₂	64160.6	64757.7	64144.8	63496.9
目標達成率	%	0.98	▲4.5	▲16.2	▲37.6

(平成 22 年以降購入電力の排出係数は、0.355とする)

(2)電力使用量は、20 年実績の2%削減の目標に対して取り組んだ結果、22 年は9.1%削減を達成した。これは、省電力蛍光灯『NECO Line』と、こまめな節電の結果が表れ

ている。23 年に関しては、現在の進捗状況から判断して達成見込みである。

項目	単位	20 年	21 年	22 年	23 年
電力使用量 実績	kWh	61666	59001	55514	40329
目標	kWh	63315	62682	61049	60432
目標達成率	%	▲2.6	▲5.9	▲9.1	▲33.3

(3)産業廃棄物排出量は、20 年実績の0.66%削減の目標に対して取り組んだ結果、22 年は、47.8%削減を達成した。これは、再使用できるものは使用したり、産業廃棄物の分別化を強化した結果である。23 年に関しては、現在の進捗状況から判断して達成見込みである。

項目	単位	20 年	21 年	22 年	23 年
産業廃棄物排出量 実績	t	24.73	15.87	12.85	9.34
目標	t	21.18	24.48	24.64	24.56
目標達成率	%	16.7	▲35.1	▲47.8	▲62.0

(4)紙使用量は、20 年実績の2%削減の目標に対して取り組んだ結果、22 年は、6.7%削減を達成した。これは、コピー用紙の裏面再使用を徹底した結果である。

23 年に関しては、現在の進捗状況から判断して達成見込みである。

項目	単位	20 年	21 年	22 年	23 年
紙使用量 実績	t	0.09	0.123	0.083	0.05
目標	t	0.163	0.161	0.089	0.088
目標達成率	%	▲44.7	▲23.6	▲6.7	▲43.2

(5)上水、地下水使用量は、20 年実績の2%削減の目標に対して取り組んだ結果、22 年

は、

上水は2.1%増加、下水は65.9%削減という結果になった。

上水は、蛇口・配管の水漏れ点検を定期的に行ったが、積雪と猛暑の為、使用量が多くなったと思われる。

地下水は、新型温水高圧洗浄機によるスチーム洗浄の時間短縮が功を奏している。

23年に関しては、上水道は目標達成には厳しいと思われる。地下水は、目標達成見込みである。

項目	単位	20年	21年	22年	23年
上水使用量 実績	m ³	713	748	720	507
目標	m ³	723	708	705	698
目標達成率	%	▲1.38	5.6	2.1	▲27.4
地下水 実績	m ³	273	321	92	69
目標	m ³	345	338	270	267
目標達成率	%	▲20.9	▲5.0	▲65.9	▲74.2

(6)燃料使用量は、20年実績の2%削減の目標に対して取り組んだ結果、22年は、ガソリンは20.0%削減、軽油は4.5%削減、灯油は16.4%削減を達成した。これは、引取・納車時の移動距離等を段取り良く回ると共に、代車の使用燃料の補充をお客様にお

願

いした結果である。軽油使用量については、積載車の使用の為、出張回数等により

大

きく変動するが、法定速度厳守による燃費の向上の表れである。

23年に関しては、ガソリン・軽油共に目標達成見込みであるが、灯油に関しては、

現

在既に、大幅に増加している。これは、昨年購入した高圧洗浄機をスチーム洗車に

使

用する為である。旧高圧洗浄機使用の際は、ボイラー不良の為にスチーム洗車を控

え

ていた為、灯油使用量も少なかったものと思われる。

項目	単位	20年	21年	22年	23年
ガソリン使用量 実績	L	13817	13206	10938	8338
目標	L	13522	13678	13678	13540
目標達成率	%	▲2.18	▲3.45	▲20.0	▲38.4
軽油使用量 実績	L	2862	2813	2705	1423
目標	L	2542	2833	2833	2804
目標達成率	%	12.59	▲2.43	▲4.5	▲49.3
灯油使用量 実績	L	760	604	629	876
目標	L	867	752	752	744
目標達成率	%	▲12.3	▲19.68	▲16.4	17.7

(7)化学物質の使用量に関しては、弊社ではPRTR 制度対象物質を使用した製品は使用していない為算出していない。

※グリス、パスター（塗料）は、PRTR 法非該当製品を使用

※工場内床塗料に関しては、キシレン・エチルベンゼンを使用している為該当製品であるが、修理工程に使用しない為対象外である

(8)グリーン購入に関しては、平成22年から取組を開始したが、コピー用紙購入量のうちグリーン製品の占める割合を60%とする目標に取り組んだ結果、22年は、目標を大幅に達成できた。これは、金額的な面や、白色度合があるが、積極的に購入した結果である。23年も積極的に購入し、現在達成率は低いものの達成見込みである。

項目	単位	22年	23年
グリーン製品占有率 実績	%	60	40
目標	%	50	60
目標達成率	%	120	▲33

(9) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスは、平成22年から取組を開始

①ペックス（無交換式オイルエレメント）に関しては、説明をすると商品の良さは

分かってもらえるが、高額な為購入されるまでには至らず、22年は結果的に目標個数には届かなかった。

②エコオイルに関しては、交換時期や車検時等に交換をお勧めするが、通常の純正

オイルを通常の交換期間で交換するほうが良いというお客様がほとんどなので、

22年は目標には届かなかった。

③ラスロンGに関しては、バッテリーに添加材を入れて長持ちさせるより、交換時

期がきたら新品に交換することを希望されるお客様が多いので、22年は台数的に伸び悩んだ結果である。

すべての商品に関して、23年も、22年同様お客様に浸透せず、目標達成には厳しいと思われる。

項目	単位	22年	23年
ペックス販売 実績	個	7	3
目標	個	20	22
目標達成率	%	▲65.0	▲86.4
エコオイル交換 実績	台	6	4
目標	台	10	12
目標達成率	%	▲40.0	▲66.7
ラスロンG補充 実績	個	12	10

目標	個	20	22
目標達成率	%	▲40.0	▲55

すべての項目に言える事は、保有台数・入庫台数・新車・中古車販売台数の減少により、作業量が減少することによる削減も数字の上で考えられることである。

今後、いかにして各項目を削減しながら入庫台数を増やすかが大きな課題となる。

2)平成 24 年度以降の目標設定

(1)二酸化炭素排出量

平成 22 年から平成 24 年までの3 年間で平成 20 年実績の3%削減

平成 25 年から平成 27 年までの3 年間で平成 24 年目標の3%削減

項目	単位	20 年実績	22 年目標	23 年目標	24 年目標	25 年目標	26 年目標	27 年目標
CO2 排出量	kg-CO ₂	64792.8	64144.8	63496.9	62849.0	62220.5	61592.0	60963.5
削減率	%		▲1.0	▲2.0	▲3.0	▲1.0	▲2.0	▲3.0

(2)電力使用量

平成 22 年から平成 24 年までの3 年間で平成 20 年実績の3%を削減

平成 25 年から平成 27 年までの3 年間で平成 24 年目標の3%削減

項目	単位	20 年実績	22 年目標	23 年目標	24 年目標	25 年目標	26 年目標	27 年目標
電力使用量	kWh	61666	61049	60432	59816	59218	58620	58022
削減率	%		▲1.0	▲2.0	▲3.0	▲1.0	▲2.0	▲3.0

(3)産業廃棄物排出量

平成 22 年から平成 24 年までの3 年間で平成 20 年実績の1%を削減

平成 25 年から平成 27 年までの3 年間で平成 24 年目標の3%削減

項目	単位	20 年実績	22 年目標	23 年目標	24 年目標	25 年目標	26 年目標	27 年目標
産業廃棄物排出量	t	24.73	24.64	24.56	24.48	24.24	23.99	23.75
削減率	%		▲0.33	▲0.66	▲1.0	▲1.0	▲2.0	▲3.0

(4)紙使用量

平成 22 年から平成 24 年までの3 年間で平成 20 年実績数値の3%を削減

平成 25 年から平成 27 年までの3 年間で平成 24 年目標の3%削減

項目	単位	20 年実績	22 年目標	23 年目標	24 年目標	25 年目標	26 年目標	27 年目標
紙使用量	t	0.090	0.089	0.088	0.087	0.086	0.085	0.084

削減率	%		▲1.0	▲2.0	▲3.0	▲1.0	▲2.0	▲3.0
-----	---	--	------	------	------	------	------	------

(5)上水道・地下水使用量

平成22年から平成24年までの3年間で平成20年実績数値の3%を削減

平成25年から平成27年までの3年間で平成24年目標の3%削減

項目	単位	20年実績	22年目標	23年目標	24年目標	25年目標	26年目標	27年目標
上水使用量	m ³	713	705	698	691	684	677	670
削減率	%		▲1.0	▲2.0	▲3.0	▲1.0	▲2.0	▲3.0
下水使用量	m ³	273	270	267	264	261	259	256
削減率	%		▲1.0	▲2.0	▲3.0	▲1.0	▲2.0	▲3.0

(6)燃料使用量

平成22年から平成24年までの3年間で平成20年実績数値の3%を削減

平成25年から平成27年までの3年間で平成24年目標の3%削減

項目	単位	20年実績	22年目標	23年目標	24年目標	25年目標	26年目標	27年目標
ガソリン使用量	L	13817	13678	13540	13402	13268	13134	13000
削減率	%		▲1.0	▲2.0	▲3.0	▲1.0	▲2.0	▲3.0
軽油使用量	L	2862	2833	2804	2776	2748	2720	2693
削減率	%		▲1.0	▲2.0	▲3.0	▲1.0	▲2.0	▲3.0
灯油使用量	L	760	752	744	737	730	722	715
削減率	%		▲1.0	▲2.0	▲3.0	▲1.0	▲2.0	▲3.0

(7)グリーン購入

その年のコピー用紙購入に占める割合を24年までに80%達成

その年のコピー用紙購入に占める割合を27年までに86%達成

項目	単位	22年目標	23年目標	24年目標	25年目標	26年目標	27年目標
グリーン製品占有率	%	50	60	80	82	84	86

(8)自らが販売・提供する製品サービス

燃費向上商品の販売台数の増加

項目	単位	22年目標	23年目標	24年目標	25年目標	26年目標	27年目標
ペックス	個	20	22	24	25	25	25
エコオイル交換	台	10	12	14	15	16	17
ラスロンG	個	20	22	24	25	26	27

●主要な環境活動計画の内容

- 1) 数値目標を達成するための取組

- ① 二酸化炭素排出量（省エネに対する取組）
 - ・ 太陽光発電によるグリーン電力を7000kWh 購入
 - ・ 省電力蛍光灯『NECO Line』設置
 - ・ 圧縮エアコンプレッサーの点検及びエアの配管ホース等によるエア漏れを定期的に点検
 - ・ 社用車の燃費向上の為、法定速度厳守及びスマートドライブの推進
 - ・ 社用車の定期点検実施及びオイル管理による燃料向上
 - ・ 代車の使用ガソリンのユーザー負担に切り替えの推進
 - ・ 室内空調は、夏は28度±1度、冬は20度±1度設定
 - ・ 夏場の体感温度減少のため扇風機使用
 - ・ 引取納車の低減とユーザーへの持込及び引取来店要請
 - ・ 昼休みの照明の省照及び減照
 - ・ 空いた土地に植林を推進
 - ・ 昼間の工場内照明の減照
- ② 紙使用量の削減
 - ・ コピーの裏紙使用の徹底
 - ・ 不要郵便物をコピー用紙として使用
 - ・ 名刺の完全再生紙化
 - ・ 社内の連絡事項は回覧方式
 - ・ グリーン購入法対象用紙の購入推進
- ③ 水使用量の削減
 - ・ ボディー洗車及びスチーム洗車の効率化
 - ・ 節水蛇口『ekoline』の設置及び水漏れ確認
- ④ 一般廃棄物削減
 - ・ 紙類の回収による資源化（世直しリサイクルシステム加盟）
 - ・ 簡易包装商品及び詰め替え商品の購入促進
 - ・ ゴミ処理の分別徹底
- ⑤ 産業廃棄物削減
 - ・ 金属類の分別回収による資源化の実施
 - ・ 大型廃棄部品（マフラー）の部品業者による引き取り
 - ・ 廃プラスチックのリサイクル
 - ・ バッテリー強化剤の添加によりバッテリーの延命化
 - ・ ペックス（無交換式オイルエレメント）の取付けを推奨し、廃棄物の軽減
 - ・ 交換サイクルの長いエコオイルを推奨し、廃油の軽減実施
 - ・ 社内使用の電池を充電加納な電池に変更
 - ・ 自社に関する環境関連法律の整備
- ⑥ グリーン購入
 - ・ コピー用紙、事務用品のグリーン製品の購入推進

- ⑦ 自らが販売・提供する製品サービス
 - ・環境負荷低減タイプのエコスーパーオイルの推奨
 - ・バッテリー復活剤ラスロンG補充の推奨
 - ・無交換オイルエレメントの販売・交換の推奨

●環境活動計画取組結果の評価

社員全員により取り組みした結果、使用量削減、排出量削減の削減につながったと思います。更なる工夫をし継続いたします。

1) 二酸化炭素排出量の削減

全社員一丸となって、節電・省エネに取り組んだ結果
グリーン電力を7000kWh購入することにより間接的に二酸化炭素を削減達成
今後も同様に、環境に貢献できる商品を購入・使用を推進
燃料削減の為、電気自動車『リーフ』1台購入

2) 電力使用量の削減

工場内及び事務所の蛍光灯を全て省電力蛍光灯『NECO Line』に変更したことによる電力消費量の大幅削減
事務所内にブラインドを取付け、直射日光が当たらないようにし、室内温度を下げると共に、扇風機使用により体感温度を下げる工夫
昨年度、新型高圧洗浄機購入により省電力・節水に大きな効果を発揮
昼休み等、事務所・工場を使用しない時間には消灯
エアコン空調の設定温度管理を徹底

3) 水使用量の削減

昨年の高圧洗浄機購入のため、節水に大きな効果を発揮
節水蛇口『ecoline』の設置による節水
洗車場に設置してある使用量管理メーターでの、1ヵ月単位での計測を継続

4) 燃料使用量の削減

代車貸出時ガソリン補充量を定め、返却時には使用量を補充要請
積載車使用時は、法定速度厳守・スマートドライブの徹底

し
は
減

旧高圧洗浄機使用の際は、ボイラー不良の為にスチーム洗車を控え高圧洗浄のみ
ていた為、灯油使用量も少なかったものと思われるが、昨年購入した高圧洗浄機
スチーム洗車（ボイラー使用）に使用する為、灯油使用量増加
車検前日に洗車する事により、下廻りは翌日に乾くのでホットガンの使用頻度削

5) 産業廃棄物の削減

ら

入庫台数の減少により産業廃棄物の減少
交換部品をリビルト品を使用することにより返却
エコ商品や交換サイクルの長い商品を推奨するが、お客様の好感度が低いのでさ
に努力が必要

6) グリーン購入

現状を継続して維持拡大

7) 自らが販売・提供する製品サービス

まだまだ知名度が低いし、高額商品のために懸念される所があるので更に努力が必
要

8) 地域における活動と評価（平成 22 年以降）

行

全員が、居住地区の活動に積極的に参加・支援及び社員証に環境宣言証を明記・携

することにより、年々活動が定着格大

22 年 1 月、タイでバッテリー劣化防止装置販売会社の環境カウンセラーとして参画

22 年 2 月、町立久崎小学校にて環境学習会

22 年 3 月、東京ビックサイトにてオートアフターマーケット参加

エコカーパックの展示

米子環境イベントに参加

22 年 5 月、神戸エコカーフェア参加

22 年 7 月、ビジネスアリーナインひょうご参加

エコカーパックと電動バイクを展示

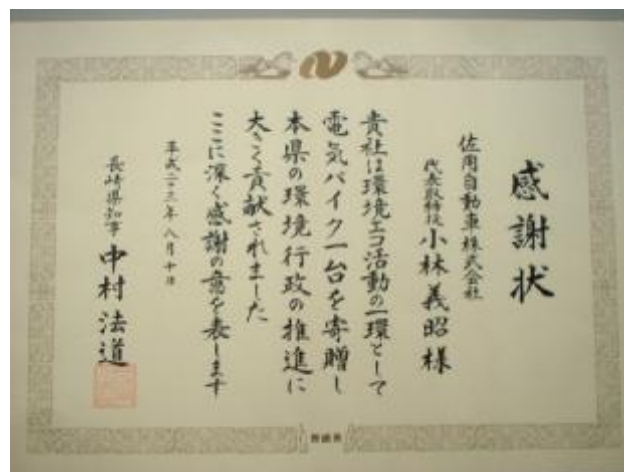
京都信用金庫・西大路支店で電気自動車と電動バイクの試乗

会開催

- 22年9月、神戸元気メッセ参加
- 22年10月、姫路市環境フェア2010参加
 - あしやまつり参加
 - ひょうごエコフェスティバル参加
 - 充電コンセント『ここでもコンセント』設置
 - 経営革新計画承認
- 22年11月、ひょうごぶれあいフェア参加
 - 国民文化祭・岡山参加
 - 地球温暖化ミニフォーラム佐用に参加
- 23年3月、兵庫環境体験館にて講演
- 23年5月、エコ&セーフティ神戸カーフェスタ2011参加
- 23年5月、県立龍野北高等学校にて環境学習授業講師
- 23年6月、地域防災防犯展参加
- 23年6月、オートサービスショー参加
- 23年6月、津山親子エコフェスタ2011参加
- 23年8月、国土交通省近畿運輸局交通関係環境保全優良事業者表彰
- 23年8月、電動バイク寄贈のため長崎県知事より感謝状
- 23年9月、国際フロンティア産業メッセ2011参加
- 23年10月、姫路市環境フェスティバル2011参加



国土交通省より表彰状



長崎県知事より感謝状



グリーン電力 7000kWh 購入

●次年度の取組計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減

- ・夏場、極力高圧洗浄のみの洗車を実施（スチーム洗浄を控える）
- ・スチーム洗車の効率化
- ・車検の前日入庫によりホットガン使用頻度の減少
- ・車検、一般修理時の引き取り・納車の更なる効率化
- ・機械及び機具を定期的（1カ月）に点検、チェック
- ・室内空調は、夏は28度±1度、冬は20度±1度に設定
- ・気候・天候・時期に応じ、照明調節
- ・スマートドライブの徹底
- ・代車使用燃料のお客様負担の更なる促進

- ・ 代車の定期点検（オイル・空気圧等）
- 2) 紙使用量の削減
 - ・ グリーン購入法対象用紙の購入の増加
 - ・ コピー用紙の裏紙再利用の徹底
 - ・ 最低必要枚数の徹底
 - ・ 不要郵便物をコピー用紙として使用
- 3) 水使用量の削減
 - ・ 洗車時・週末の工場清掃時の更なる工夫
 - ・ 蛇口、配管の水漏れ点検修繕
 - ・ 節水に努力
- 4) 一般廃棄物の削減
 - ・ 詰め替え商品の購入
 - ・ 簡易包装商品の購入
 - ・ ゴミ処理の分別の徹底
- 5) 産業廃棄物の削減
 - ・ リビルト製品の更なる使用
 - ・ 廃バッテリーのリサイクル業者への引き渡し推進
 - ・ 金属類、廃プラ類の分別強化
 - ・ 大型交換部品の仕入業者への引取要請推進
- 6) グリーン購入
 - ・ エコ製品の把握、購入
- 7) 自らが販売・提供する製品サービス
 - ・ お客様への認知度向上の努力
 - ・ 取組商品の商品知識と販売促進の向上

●環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、

訴訟等の有無

- 1) 適用となる主な環境関連法規

法規名	主な特定場所	遵法評価
廃棄物処理法	廃油・廃タイヤ・廃バッテリー他	○
自動車リサイクル法	自動車の廃棄引取義務	○
フロン回収・破壊法	使用済自動車・冷蔵庫・業務用エアコンの廃棄	○
水質汚濁防止法	油水分離槽	○
消防法	危険物保管庫	○

2) 環境関連法規への違反は発見されていません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘及び各方面からの訴訟や、地域からの苦情は、過去5年間ありません。

●環境上の緊急事態

緊急事態を想定し、年1回緊急時対応訓練を行います。

23年は6月1日に実施

緊急事態管理責任者 小林 義昭

●環境教育・訓練

毎月1回、一日に社内で環境ガイダンス等を実施

内容 前々月までの紙、ゴミ、電気の使用量の報告とチェック
売上内容分析による増減対比

当月取り組みの努力目標、計画を発表

教育訓練担当 小林 義昭

●代表者による全体評価と見直しの結果

最近は何年何年今年は何が出来たのかなどと、いつも社員と悩む。昨年も似たような主旨のことをコメントしている。あの3.11からも、これだけ「節電」しているのにもういっばいっばいって泣き言も入った。いやまだある、日の高い夏場は工場のメイン照明を消しても仕事には差し支えないのではと私が提案しました。すると、本当に大丈夫でした。これは工場照明の節電はこれで行くとなりました。

ただ、リーマンショックから2年前の大水害、そして今年の東日本大震災。自動車産業は製造から販売、メンテナンスまでいまだに完全回復とはいきません。

そんな中で弊社も販売台数、売り上げなどが減少しています。これによるところのエネルギー削減は企業の努力ではなく、単なる売上の減少によるエネルギー削減ということです。今後は売上減少も加味した活動レポートを仕上げます。

ただし、それより販売台数の増加、売上のキープがいの一番であることは間違いない。

とにかく今年も社員の奮闘に感謝するのでございます。